

# 第13回糸魚川市教育委員会定例会会議録

- 1 日時 令和元年9月25日(水) 14時から
- 2 会場 糸魚川市役所 201.202会議室
- 3 出席委員 教育長 井川 賢一  
委員 永野 雅美  
委員 靄本 修一  
委員 谷口 一之  
委員 塚田 京子
- 4 欠席委員 なし
- 5 委員以外の出席者  
教育次長 磯野 茂  
こども課 課長 磯野 豊 課長補佐 室橋 淳次  
係長 田代 正人  
こども教育課 課長 泉 豊 参事 富永 浩文  
課長補佐 松村 伸一  
生涯学習課 課長 小島 治夫 課長補佐 磯貝 恭子  
文化振興課 課長 伊藤章一郎 課長補佐 伊藤 伸一  
博物館 館長 竹之内 耕  
市民会館 館長補佐 猪股 和之  
書記 こども課主査 佐藤 恵美
- 6 報 告  
報告第 25号 糸魚川市立学校共通評価項目について  
報告第 26号 各課・機関所管事項について
- 7 協 議  
協議第 1号 子ども一貫教育基本計画の見直しについて
- 8 会議録署名委員の指名 2番 靄本委員
- 9 傍聴者 2人

教育長	これより第13回教育委員会定例会を開会する。
教育長	報告第25号糸魚川市立学校共通評価項目について、事務局からの説明を求める。
こども教育課参事	(資料に基づいて説明)
教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
永野委員	この調査は、無記名で実施されるのか。
こども教育課参事	学校により異なるが、記名式または書いた子どもが分かるようになっている。
永野委員	「学校に来るのが楽しいか」の問いに「はっきりイエ」と回答した児童が小学校と中学校で1%ずついて、対応策として、直接面談を行うとあるため、記名式であるか確認した。以前、ある学校では何年生、女子といった記入だけであった。個別指導を行うのであれば記名式で、統一した方がいいのではないか。
こども教育課参事	学校生活に対し、何らかのハードルやギャップを持つ子どもたちを支援するためには、その子の内面に寄り添うことが大切だと思う。日常的なアンケートも実施しながら、その子に寄り添っていきたい。
靄本委員	毎年実施している糸魚川市一斉の共通評価で各質問項目も、概ね良好と把握をしたが、学校により差異はないか。大規模校は市全体の傾向と同じと考えるが、学校規模により差が大きくないか。その評価結果を各校の教育活動にどう生かし、反映していくのか聞かせてほしい。
こども教育課参事	全体的には良好だが、結果を見れば、心配な学校は分かってくる。その学校には個別に知らせ、こども教育課の中でも組織的な対応ができないかを考え、評価結果を取組に生かしている。
靄本委員	評価を機会に学校運営上の悩みを教育委員会で支援し、改善できれば、PDCAサイクルが機能する。何のための評価か、評価の低い部分を客観的に受け止め、校長等と情報交換しながら、教育委員会の適切な支援で新たな施策へ進め、次への調査、2学期への効果が期待できる。結果を受けて各校の対応は把握しているか。
こども教育課参事	この評価項目に限らず、各校では結果を2学期の始業前に職員会議や学校評価検討委員会等を開催し、改善策を立て実践している。
靄本委員	こうした評価は保護者や地域にどのような形で発信されているか、今後の見通しも含め教えてほしい。
こども教育課参事	既に報告している学校もある。結果については学校だよりや、2学期早々のPTA総会等で説明され、具体策も明示している。
教育長	「家庭学習をしているか」の評価について、全国学力学習状況調査結果と同じく、家庭学習が習慣付いていないことが分かる。改め

こども教育課参事	<p>て、この課題にどのように取り組んでいくか。</p> <p>直近の校長会でも今回の結果を知らせる予定である。特に、家庭学習の定着、自立した学習習慣の形成を中学校区単位で高め合う方向へ働きかけたい。</p>
教育長	<p>課題がはっきりしている。しっかり対応していきたい。</p>
教育長	<p>報告第26号各課・機関所管事項について、事務局からの説明を求める。</p> <p>(資料に基づいて説明)</p>
	<p>こども課 所管事項報告  こども教育課 所管事項報告  生涯学習課 所管事項報告  文化振興課 所管事項報告  図書館 所管事項報告  博物館 所管事項報告  市民会館 所管事項報告</p>
教育長 靄本委員	<p>今ほどの説明について、ご質疑はないか。</p> <p>3年目の「白嶺防災フォーラム2019」は、他県の高校生や、地元中学生の参加、糸魚川高校出版委員会の取材があり、高校生自身が故郷の課題を考え、どう対応していくか本格的に探究する活動発表の場であった。高校生主体のイベントであるが、参観者、応援者として地元関係者も関わり、一緒に共通課題へ取り組むことは「協働」のテーマに合致する。そこへ教育委員会はどんな視点から参画するのか。</p>
	<p>今回の取組内容を糸魚川タイムスが記事1面に取り上げ、アピールしてくれたが、取組を市民に周知することで、連携、協働に広がりを作り、イベントの企画から市民を巻き込み、さらにその様子を情報発信し、継続していく必要がある。教育委員会はそこへ支援、参画、指導できるのか。連携する大学や博物館の専門家との協働をどう実現しているか。みんなで課題に向かい、探究していく形がこうしたイベントから生まれてくる。さらに大きく充実させるために必要な視点である。</p>
こども課管理係長	<p>白嶺防災フォーラムは生徒が自主的に防災に興味を持ち始めた課外活動がきっかけとなり始まった。フォーラムの企画、進行は生徒自身であり、白嶺高校は防災専門の学校ではないが、防災に興味を持っていることを他県の防災学科の高校生にアピールできた。教育委員会の参画は魅力化補助金を通じ支援する。また、次年度も参加し、高校生主体のままでよいかなど検証していきたい。</p>

こども課長補佐	広報は糸魚川タイムスに掲載があったり、市のホームページでも2日間の状況を掲載している。
こども課長	自主的な気持ちで取り組むことが1番大切である。生徒は自主的に企画する気持ちが湧き、先生と2日間の行程を作り上げた。その中で博物館長から糸魚川ならではの防災・災害を教えてもらったり、焼山に関しては、地元の方から話を聞くなど、生徒にとって非常によい経験になった。今回参加した専門学科の舞子高校と多賀城高校の生徒は学ぶ意欲が非常に高く、その姿を見るだけでも良いフォーラムであった。糸魚川の子どもたちもその姿を手本とし、来年以降、気持ちを持って活動してほしい。
教育長	新聞等で高校生がとりあげられる機会が増えている。その姿を市民に周知し、糸魚川市の高校生の頑張りを示すことが大切である。
塚田委員	地元の子どもたちの頑張っている姿を地域が知ることは大切である。見る人が限られるホームページだけでなく、他の方法でも周知をお願いしたい。
こども課長	高校生の活動だけでなく、市や教育委員会が普段何をしているか、市民に伝わっていない。まずは保育園、学校での出来事をリアルタイムにお知らせしたいと思っている。手軽に伝わるような方法を考えていきたい。
永野委員	白嶺高校のイベントに糸魚川高校や青海中学校の生徒が参加しつながりが広がってきている。学校の枠を超えた取組は素晴らしい。
靄本委員	「ジオパーク10周年記念お祝い給食」の概要を教えてください。 10周年を糸魚川市全体でお祝いをする、さらに5年先、10年先の認定に向け盛り上げていきたい。給食のほかに、各小中高校や教育委員会で10周年記念のイベント予定があるか。教育委員会では取組みはあるのか。フォーラム開催のポスター掲示はあるが、地域や子どもたちが10周年をお祝いすることでジオパーク学習を盛り上げるきっかけづくりができるのではないかと。
こども課管理係長	お祝い給食は市内小中学校、市の栄養士の企画である。8月中に試作し、献立を考えている。メニューの「断層ミートローフ」豚挽き肉と鶏ひき肉を東西の断層に見立て、オーブンで焼いたもの。 「石のまちサラダ」はブロッコリーを糸魚川市の木々に、豆を大小様々な石に見立てたサラダ。「ヒスイ峡スープ」は春雨で清流を、枝豆をヒスイに見立て、岩石をイメージするメギスの団子、水草をイメージした親不知のもずくを使ったスープとなっている。
靄本委員	子どもたちと一緒に祝いする良い機会であるが、ジオパーク学習でお世話になっている方の招待は企画していないのか。
こども課管理係長	準備等が間に合えば検討する。お祝い給食実施の翌日にシンポジウムも開催されるため、シンポジウムのプレスリリースとタイミン

こども教育課長	<p>グを合わせ来週、発表したい。ジオパークの取組と献立を紹介した食育だよりも10月4日付で学校から家庭へ配付する。</p> <p>学校でのジオパーク10周年の取組予定はないが、毎年、ジオパーク交流会が開催されており、今年度の参加校を調整する際に周知しようと考えている。</p>
塚田委員	<p>市民会館鑑賞事業「野村萬斎はじめての狂言」は満席であった。近年、魅力的な事業が多く、職員の努力に感謝する。糸魚川で本物に接することはありがたく、子どもの鑑賞者も多かった。一流のものを鑑賞することは、子どもたちの人間性を豊かにし、夢を持つきっかけとなる。子どもたちも気軽に芸術に触れる機会を増やしてほしい。</p>
市民会館長補佐	<p>市民会館鑑賞事業は、老若男女問わず楽しめる事業や、県との共催や助成金等の利用で、気軽にチケット購入できる事業を選んでいるが、他の会館で売り切れ、満席であっても糸魚川市では売れ行きが悪い場合もあり苦労している。今後もできるだけ多くの方にご覧いただけるよう工夫していきたい。</p>
永野委員	<p>子どもたちは、ジオパーク交流会に一生懸命取り組んでいるが、例年、観覧者が少なく残念である。特に今年は10周年記念でもあるため、周知に力を入れてほしい。</p>
こども教育課長	<p>毎年、各所へ案内をしているが、また違う形での周知も考え、多くの方に観覧いただきたい。</p>
靄本委員	<p>フォッサマグナミュージアムの特別展は、小学校高学年や中学生が1時間程度で学習できるレベルであるか。特別展を機会に、見学したことがない子どもたちに興味・関心を持たせる絶好のチャンスである。</p>
博物館長	<p>展示内容は中学校1年生が理解できるものである。土曜日、日曜日の来館者が多い場合に、学芸員が展示を解説する「ギャラリートーク」も計画している。地元の中学校や高校生からも来館してほしい。市内の小中学校、高校にはポスターやチラシを配布する予定である。「ギャラリートーク」等の開催も案内し、子どもたちからも来館してもらえるよう周知したい。</p>
教育長	<p>協議第1号子ども一貫教育基本計画の見直しについて、事務局の説明を求める。</p>
こども教育課参事	<p>(資料に基づいて説明)</p>
教育長	<p>今ほどの説明について、ご質疑はないか。</p>
永野委員	<p>見直し案を拝見し、0歳から18歳までの一貫教育に高等学校の内容が充実し、大変うれしく思う。反面、早寝早起きおいしい朝ごはんの活動が当初と比較するとトーンダウンしているように思う。基本に戻り、生活リズムの定着に重点を置き、内容を充実させつつ、</p>

こども課長

しっかりとした土台の上に積み上げていかなければならない。

生活リズムの定着は、乳児期の愛着形成や後の学力向上につながる。この部分は親子保健計画でも推進している。今年度、親子保健計画の中間評価としてアンケートを実施する。この結果も一貫教育に反映させていきたい。

塚田委員

「家庭」「園・学校」「地域」の連携関係が示されているが、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校のつながりも重要である。それぞれが関わり合うことで、地元の高校や一貫教育の良さを知り、高校生、中学生が保育園と関わることで自分ができることも見えてくる。人間形成にも大きく影響する。ジオパーク学習においても、高校生、中学生が地域を学び、ジオパークガイドとなり、またそのことで地元をよく知り、キャリア教育にもつながる。アンケート結果も子ども一貫教育について、理解している人が一部である。この「子ども一貫教育基本計画」はとても分かりやすく、素晴らしいものだが、保護者も含め、読む人がどれだけいるか、もっと手に取りやすいものしてほしい。

こども教育課参事

それぞれの立場で、自分の役割はどこか、何をすべきかを自覚することが「一貫教育基本計画」の推進にとって重要である。裾野をいかに広げ、参画する方を増やすか、計画作成後の取組が重要である。一貫教育基本方針のダイジェスト版もある。さらに、ガイドマップもあり、より内容性、活用度が高いものである。基本的な考え方やそれぞれの立場で発達段階に応じ、どんな取組をすべきか、見やすく書かれている。

ガイドマップが一般市民の方にもより理解されれば、今までとは異なった基本計画の活用ができてくると考え、普及についても検討していきたい。

鶴本委員

調査により、課題が明らかになった。課題解決に向け「協力・連携」から「連携・協働」へキーワードの大きな変更があった。「協働」にはどういった意味があり、何をすべきか、しっかり提示してほしい。また、コミュニティスクールとどう違うのか。コミュニティスクールの運営、活動、目的体制を「協働」という視点から明示しなければ、参画者の思いが一つにならない。言葉の定義と具体例をイメージさせ取り組みを補っていかなければならない。

「基本計画推進の体制」に「三者の連携・協働」とあるが、その下の図中には「協働」の文字が入っていない。以後の文中にも書かれていない。新たなことではなく、今現在、実践していることを、どういった視点で改善すれば「協働」となるか、助言をしなければならぬ。

谷口委員

学校現場は、計画に沿って教育活動を行いたい。新しいことをしようとすると、大変さが大きくなる。今の活動をどう続けるか、ど

こども教育課参事	<p>う改善するればよいか、教育委員会からも具体例を示してほしい。</p> <p>これまで、学校づくりや子どもの教育を「連携・協力」し進めてきたが、これからはお互いが「協働」し取り組むことで、学校を核とした地域づくりへ発展する。すでに「協働」で取り組むものは多く、例えば、能生小学校の「フウセンカズラのふれあい・見守り活動」は、まさに子どもたちの教育であり、また、地域づくりの活動にもなっている。これが「協働」の活動と考える。</p> <p>学校運営協議会は、共通目標に対し、委員の中でアイデアを出し合い、課題解決に向け方向性を練っている。また、必要に応じ、委員のネットワークを生かし人材を探している。地域学校協働活動は、コーディネーターが中心となり、地域の中から教育活動や学校運営の人材を掘り起こし、活用している。両活動とも、学校の教育活動の車輪の両輪のような存在である。</p>
永野委員 こども教育課参事	<p>図の「連携」の下に「協働」を表記すれば、より分かりやすい。</p> <p>「共通目標」の中に「協働」が隠れている。これから「協働」で取り組めることを、まずは10月9日の学校運営協議会の代表者集会でアイデアをいただきたい。</p>
教育長	<p>「協働」の記述が薄い印象を受けた。実際、総合計画の中には、これまで市の方向性は出ていたが、今回の改定で、市の方向性に対して市民も自分事として捉え、動いてほしいとされている。それも参考にしながら計画を作してほしい。市民への呼びかけは、具体例が必要である。</p>
靄本委員	<p>「協働」のキーワードは、子育ての協働性を明確にする。「協働」で教育コミュニティを作っていくという核である。学校が核となり、その中にみんなで汗を流す活動が生まれ、活動を通し、みんなが変わっていく。子どもを見直し、みんなで子どもを応援していく体制を作っていくことが「協働」である。新しいことではなく、今やっていることを少し改善やアレンジすれば「協働」となる。</p> <p>地域で子どもたちを育てていく仕組みであると思う。糸魚川市はすでに取り組んでいる。自信をもって取り組んでほしい。</p>
塚田委員 こども課長	<p>キャリア教育にある「デュアルシステム」とは何か。</p> <p>高校ではインターンシップで総合の時間に就業体験をしているが、それを更にレベルアップし、企業内で実習したことで単位の取得ができる。現在は、まだ取り組みに向けての準備段階である。</p>
教育長 委員	<p>ほかにご質問ないか。</p> <p>(「なし」の声あり。)</p>
教育次長	<p>次回教育委員会定例会開催日 令和元年10月23日(水)14:00より</p>

生涯学習課長	<p>その他 令和3年度高等学校総合体育大会の開催について報告する。 (資料に基づいて説明)</p>
こども課課長補佐	<p>学童保育・放課後児童クラブについて報告する。 (資料に基づいて説明)</p>
鶴本委員	<p>児童クラブの人員確保等厳しい現状が分かった。今後の対応とし、民間委託の話があったが、どのような期間で、どのような方法での実現を考えるか、事務局の見通しを教えてください。</p>
こども課課長補佐	<p>児童クラブの運営は、全国的に公営の運営が35%ぐらいで、残りの65%は民営委託で実施されている。民間委託も社会福祉法人やNPO法人、または完全な民間事業者への委託がある。当市は、社会福祉法人やNPO法人等への委託は考えにくく、民間事業者で検討を進めたい。</p>
鶴本委員	<p>地理的な問題や季節的(豪雪)な問題もあり、民間委託は難しいのではないか。</p>
こども課長 永野委員	<p>全国的な事例もあるため、話は聞きながら準備を進める。 児童クラブ民間委託の成功事例があれば教えてください。</p>
こども課課長補佐	<p>全国でも県内でも社会福祉法人やNPO法人への民間委託は多い。妙高市もNPO法人へ民間委託を行っている。完全な民間委託として把握しているのは、県内では新潟市で1から2カ所で、まだ、あまり事例はない。</p>
永野委員	<p>民間委託となっても、現在と同じ場所を利用し、人材を確保して行うのか。</p>
こども課課長補佐	<p>現在の9カ所をそのまま利用する想定で、現在の支援員も引き続き雇用できるよう進めていきたい。</p>
こども課長	<p>実情は様々であるが、すべてを任せるのではなく、市が委託者であり、運営はあくまでも市である。</p>
教育長 委員	<p>ほかにご質疑はないか。 (「なし」の声あり。)</p>
教育長	<p>以上で第13回教育委員会定例会を閉会とする。</p>

16:00 終了